

HUMAN RIGHTS

「人権は、身近な問題から」 ～パトロールや標語募集をとおして考える～

住友電気工業株式会社

●はじめに

当社は、大阪同和・人権問題企業連絡会に加入し、人権問題への取り組みを行ってきましたが、どのようにすれば社員の人権問題に対する理解を深め、差別のない明るい職場をつくることができるか、試行錯誤を繰り返しながら、同和問題研修や人権啓発活動を続けてきました。

そのような取り組みの中で、「自分の身近にも問題はいくらかでも存在している」という“気づき”の部分が重要ではないかと考えるようになりました。

●人権は「心」の安全を守ること

製造業である当社は、工場での“ものづくり”を重要な使命としている会社ですので、職場の安全管理を特に重視し、「安全第一」を徹底しています。そのため、職場の管理者にとって「安全パトロール」は、職場の危険の芽を事前に摘み取り、事故を起こさない安全な職場づくりのために、非常に重要な取り組みとなっています。

そこで、安全活動が、「身体」の安全を守るための活動であるように、人権研修・啓発活動は「心」の安全を守ることではないかと考え、取り組み体制の整った事業所から、人権週間のある12月に「人権パトロール」を始めることにしました。

この「人権パトロール」によって、『セクハラにつながるようなカレンダーやパソコンのスクリーンセーバーが使用されていないか?』、『作業手順を定めた作業標準書類の中に差別的な表現がないか?』など、人権上問題となる事項を点検することができます。

●身近な問題から考える

また、「人権パトロール」を通じて、六曜(大安、仏滅など)が記載されたカレンダーが職場に掲示されていることを発見し、古い因習にとらわれる私たちの意識の問題について指摘する場合もあります。

1回の「人権パトロール」で指摘できる事項は多くはありませんが、その意義は、巡視する職場管理者が身の回りにある問題について指摘することにより、



職場で議論が巻き起こり、みんなで人権問題を考えるようになることです。

●一人ひとりが人権標語を!

当社では、安全意識を高めるための「安全標語」の募集と同様に、人権意識を高めるために「人権標語」の募集にも力を注いでいます。全社で毎年約3千件の標語の応募がありますが、内容はどうであれ、とにかく自分で考えて書くことを重視しています。「人権標語」を考えることにより、人権を遠い世界の話ではなく、身近にある自分の問題としてとらえる良い機会になっているように思います。

●さまざまな機会に人権を学ぶ

人権研修を受講できる機会を増やし、できる限り多くの社員が人権を学べるよう努力していますが、研修だけでは限界があります。例えば、憲法週間、人権週間について社内報で告知するなど、さまざまな機会をとらえて人権について学ぶことが大切であると思います。今後も、差別のない明るい職場づくりをめざして、人権を自分の問題として考える機会を増やしていきたいと考えています。



そうぞう

6

2003.9*No.6